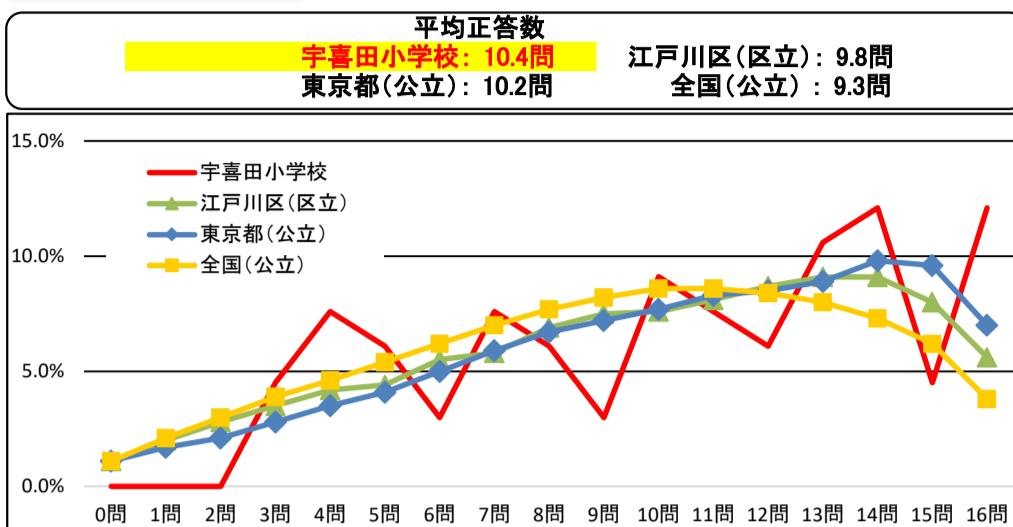


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】江戸川区立宇喜田小学校

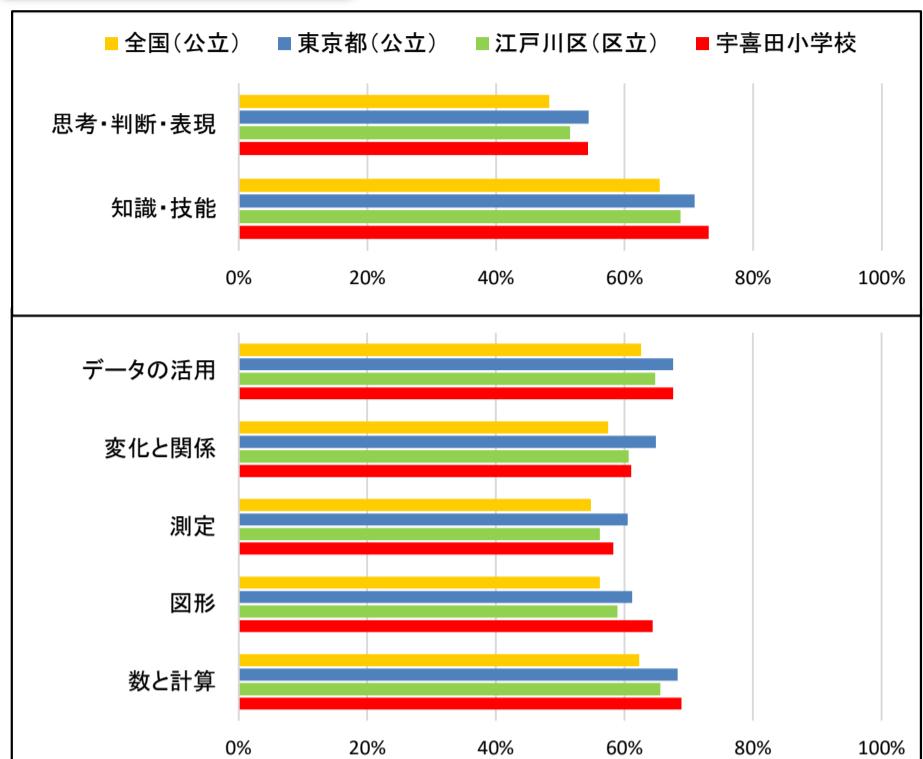
正答数分布



【平均正答率の差】

	65%
宇喜田小学校	65%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	1.0

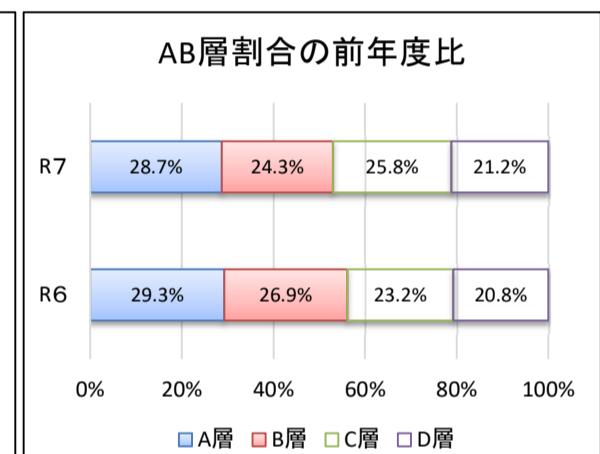
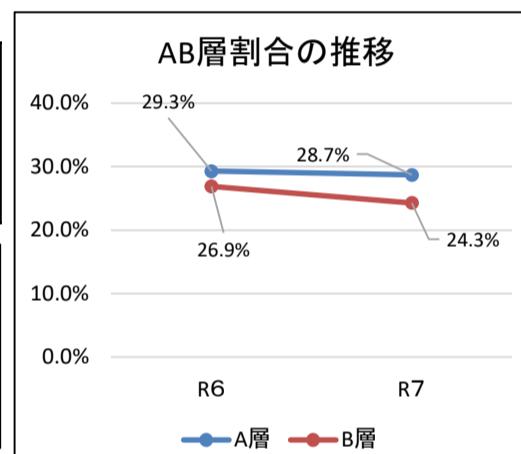
「領域別」の結果



四分位における割合 (都全体の四分位による)

算数	上位 ← → 下位			
	A層	B層	C層	D層
	14~16問	11~13問	7~10問	0~6問
宇喜田小学校	28.7%	24.3%	25.8%	21.2%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答回計値を基準とした場合の、本校の様子。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

学力下位層の児童の割合が高い水準となっており、特に分数に関する「知識・技能」の習得や定着に課題がある。B層とのボーダーライン上において、あと1~2問の正答でB層に浮上できる児童が非常に多いことや、無答率が少なく正答0~2問までが0人であることも特徴である。問題パターン別の分析では、今年度は「変化と関係」に関する問題を苦手とする児童がやや多く見られた。

C~B層の児童は、基礎的な計算力よりも「問題文や表を正確に読むこと」や「計算ミスがないか確かめること」に課題があり、もっている力を十分に伸ばし切れていない面がある。問題の解き方や見直しの仕方をもう一度確認し、自信をもって力を発揮できるように指導を行っていく。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

- ・低学年の段階から、具体物を用いた指導の充実によって数の概念を身に付けさせ、児童の「数感覚」を養う。
- ・掛け算九九や、四則計算、筆算による正しい計算技能について、次の学年への積み残しがないように、授業外の時間も含めて計画的に指導する力を身に付ける。
- ・定期的に行う学習状況の到達度を図る調査において、調査後の分析・振り返りを徹底し、児童の弱点に応じた解説ができるようにする。

・基礎学力の保障

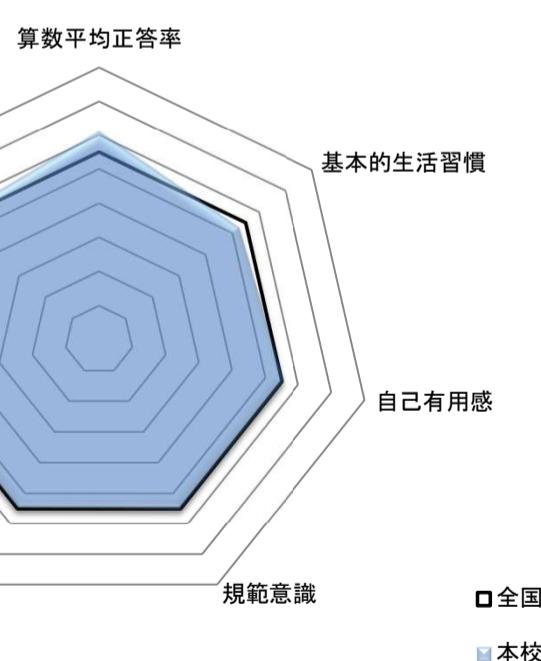
- ・算数少人数習熟度別指導において、各学習集団ごとに問題の提示の仕方や既習事項の振り返り方を工夫し、全ての児童が毎時間の到達目標を達成できるようにする。
- ・年3回の東京ベーシック・ドリル診断テストで、前学年までの履修内容の定着状況を確認し、同じ問題を確実に解けるように繰り返し演習させる。
- ・木曜日の朝学習(15分間)において、計算を中心とした問題を早く正確に解く力を身に付けさせる。

・学習習慣の確立

- ・学習カルテを活用し、前学年や現学年の既習事項の振り返り学習を徹底する。
- ・すきま時間を活用した「ドリルパーク」による問題演習を推進する。1日1回以上アクセスし、問題を解くことを目標として設定する。
- ・本校で設定した「ノート指導の手引き」に準じ、丁寧な字でノートを書くこと、特に筆算の計算を丁寧に行い計算の過程を残すことを日々指導する。児童が、自分のノートを見返しながら学習内容を振り返ったり、自分の考えを練り上げたりできるようにする。

・AB層の育成

- ・区の学力向上推進校として、算数の授業改善に向けた研究を行う。その一環として、思考力を養うドリル教材を導入して問題演習を行ったり、年2回の到達度確認調査で苦手分野を捉えて指導したりする。
- ・教室に既習事項を掲示するなど、児童の思考・判断・表現を支える学習環境を整備する。
- ・校内で作成した「ノート指導と板書の手引き」の活用を徹底し、問題解決型学習の充実を推進する。



《チャートの特徴》

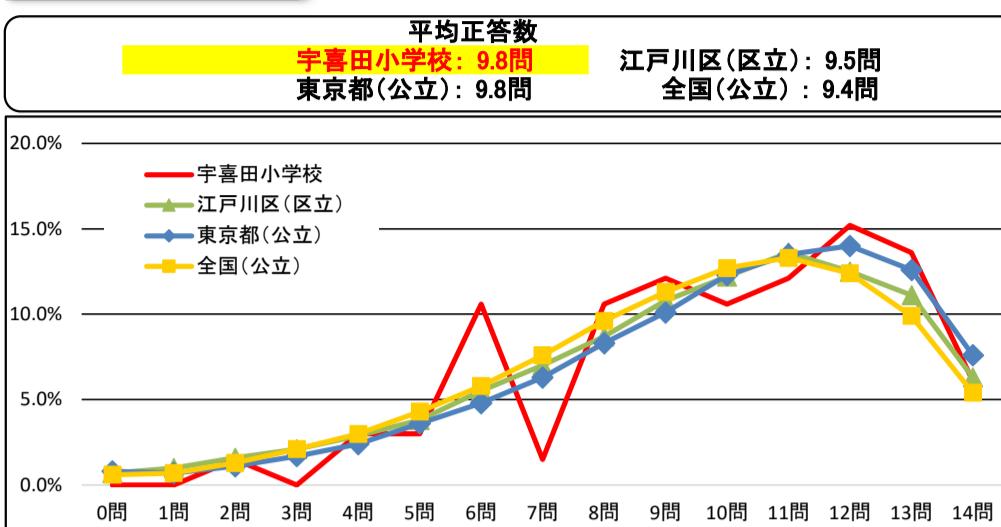
「基本的な生活習慣」の指標が、都平均・全国平均を下回っている。特に、朝食の喫食と決められた時間での就寝の項目について、全国平均から6~7ポイント程度下回っている。決められた時間の起床は全国平均と同等であることから、睡眠時間が適切に確保されていないという実態がうかがえる。その他の指標については、全国・都の平均と同等か上回っている。特に「算数学習への関心や理解度」に関する質問紙項目への肯定的な回答が多く、算数の正答率も高い。

《家庭・地域への働きかけ》

生活リズムの改善に向けて、体育科の保健領域や家庭科等の教科教育において、生活習慣の育成に向けた正しい知識を身に付けたり、具体的な改善方法の検討を行ったりする時間を設ける。その上で、家庭にも適切な睡眠時間の確保や、朝食の喫食への働きかけを依頼し、子供たちが健康な心身で更なる学力向上を図ることができるようになる。

令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】江戸川区立宇喜田小学校

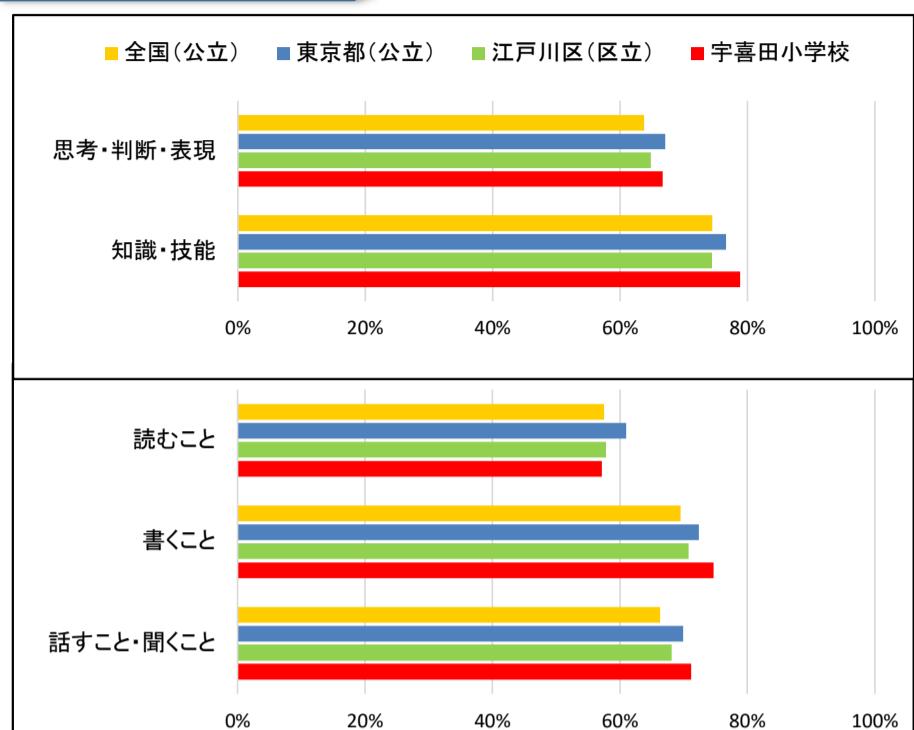
正答数分布



【平均正答率の差】

学校	平均正答率(%)
宇喜田小学校	70%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	0.0

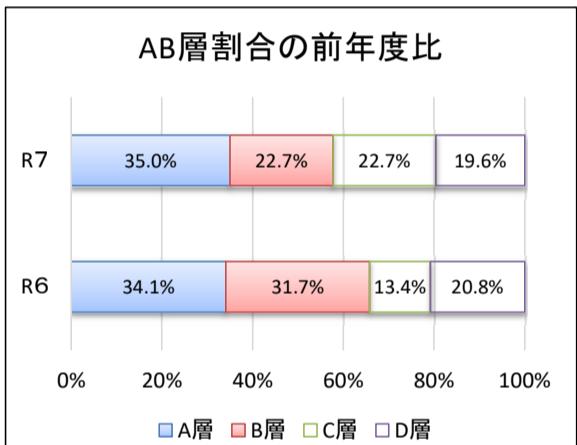
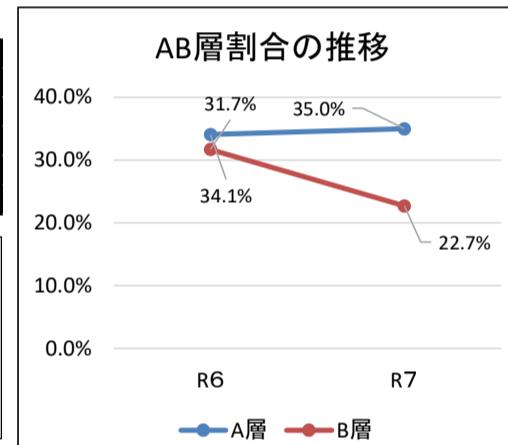
「領域別」の結果



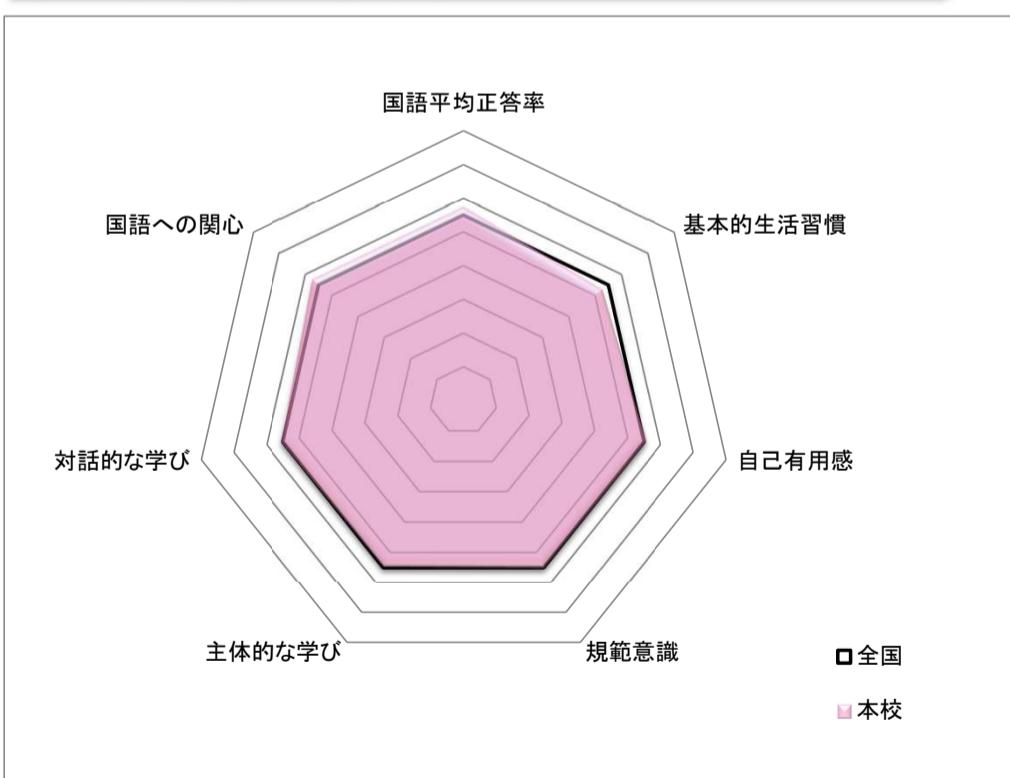
四分位における割合(都全体の四分位による)

国語	上位				下位			
	A層	B層	C層	D層	12~14問	10~11問	8~9問	0~7問
宇喜田小学校	35.0%	22.7%	22.7%	19.6%				
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%				
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%				
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%				

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答回計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

「基本的な生活習慣」の指標が、都平均・全国平均を下回っている。特に、朝食の喫食と決められた時間での就寝の項目について、全国平均から6~7ポイント程度下回っている。決められた時間の起床は全国平均と同等であることから、睡眠時間が適切に確保されていないという実態がうかがえる。その他の指標については、全国・都の平均と同等か上回っている。「国語学習への関心や理解度」に関する質問紙項目への肯定的な回答が多い。国語学習への意欲を、より適切な課題設定により学力向上へつなげる。

《家庭・地域への働きかけ》

生活リズムの改善に向けて、体育科の保健領域や家庭科等の教科教育において、生活習慣の育成に向けた正しい知識を身に付けたり、具体的な改善方法の検討を行ったりする時間を設ける。その上で、家庭にも適切な睡眠時間の確保や、朝食の喫食への働きかけを依頼し、子供たちが健康な心身で更なる学力向上を図るようになる。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

学力中位層の児童の割合が高い水準となっており、情報の扱い方に関する「知識・技能」の習得や定着に課題がある。また今年度は「読むこと」に関する問題について正答率が低下傾向にあった。長文を正しく読んだり、資料と関連付けて読んだりすることを苦手とする児童や、長文読解において、段落ごとに書かれている内容を捉えながら、文全体の構造を捉えることを苦手としている児童が多い。日々の国語学習において、声に出しながら文章を音読する時間や、活字を主体とした本や新聞を読む時間の更なる充実が必要であると考える。

以上より、本校では音読学習の徹底を軸とした学力向上の取組を行い、「文を集中して読む力」を高めるとともに、内容や情報を正しく読解して考える力を養う。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

- ・児童への音読指導の徹底を図り、目と耳で文の内容や語句の意味を正しく把握しながら読むことの意義を日々児童へと伝え、習慣付けていく。
- ・教科担任制の推進により、教科への専門性・指導力の向上を図るとともに、学年で一貫した指導を行う。
- ・各種学力調査問題を、指導する教員も解きながら問題の出題意図を分析し、文や問題の読み方や考え方を指導できるように準備する。

・基礎学力の保障

- ・国語の時間は、全ての学年で毎時間音読を行う。ただ読むのではなく、抑揚をつけたり、間を置いたりするなど、文に書かれていることの意味を理解しながら表出できる音読を目指すことを指導する。
- ・火曜日の朝学習(15分間)において、既習の漢字や語句の問題演習を繰り返す。
- ・対話的に学ぶ場面では、本文から根拠を得て考えをもつことを繰り返し指導し、話合いが互いの考えのよさに気付いたり、妥当性を検討できたりするような場となるようにする。

・学習習慣の確立

- ・すきま時間を活用した「ドリルパーク」による問題演習を推進する。1日1回以上アクセスし、問題を解くことを目標として設定する。
- ・昼読書の時間に、学年に見合った内容や文字数の本が読めるようにする。
- ・本校で設定した「ノート指導の手引き」に準じ、字画の揃った丁寧な字でノートを書くことを日々指導する。児童が、自分のノートを見返しながら学習内容を振り返ったり、自分の考えを練り上げたりできるようにする。
- ・家庭学習で全ての学年で毎日音読の課題を出し、音読チェックを家庭に依頼する。

・AB層の育成

- ・よむYOMUワークシートによる読解演習問題を隔週で行う。また、100文字テーマ作文の朝学習を導入し、様々な文章や資料を短時間で読解し、自分の言葉で説明する力を身に付けさせる。
- ・B～C層児童に対して、語彙力を増やす問題演習を計画的に行う。ドリルパークの基礎問題や東京ベーシック・ドリル問題を定期的に配信し、教科書で学ぶ語句だけでなく、慣用的な表現も含めて様々な言葉に触れさせる。